



<今月の1枚>

ママさんリフレッシュセミナー ～ボディメンテナンス講座～

サークルを立ち上げてみたら

教員だったころ、教育について話し合うサークルを立ち上げて、ささやかに活動していました。月1回、土曜日の午前中に、当時住んでいたまちの市民活動センターの和室を借り、参加者が持ち寄った話題についてワイワイと話し合う場です。セミナーのように講師はいません。みんなが対等な関係です。参加費は部屋代の人数割り。最小限の手間と費用でやっていました。

昨今の報道のとおり、学校現場は多忙を極めます。ずっと仕事に追われ、走り続けているような感覚がありました。誰かに話を聞いてもらったり、これまでやこれからについて腰を落ち着けて考えたりする時間と場がほしい！！ たどり着いた結論が、サークルを作ることでした。私にとって、効果は絶大。毎回、袋小路に入り込んで固まった思考が解きほぐされるのを感じました。

先輩後輩や同僚などに声を掛けると「おまえの会なら参加する！」「いいですね！今度行きます！」とうれしいお返事をもらうものの、最初の2年間は一人読書会だったこともしばしば。でも、それでいいと思って続けていました。サークルの場を心の底から欲していたからです。

活動が3年目に入ったころ、突如として様々な立場の方が集い始めました。同僚、教え子のお母さん、元教員、フリースクールの経営者、子ども食堂の運営者、PTAおやじの会代表、ずっと支え続けてくれた友人たち……。『学校の先生の話聞いてみたい』『自分の考えについて意見をもらいたい』など、参加の動機は様々でした。共通しているのは話が尽きないこと。お昼を過ぎて和室を出てもロビーで議論が続くことがあり、主催者が思いもよらぬ展開に。こうして集う人や回数が増えるほどに、活動から得られる効果もぐんぐんと増していきました。

折悪しくコロナ禍が始まり、社会教育への転身で私がまちを離れたこともあって、もうあの和室に集うことはありません。でもありがたいことに、あれから数年経ったのに、集った人たち同士や、私とのつながりはいまだに続いています。人との緩やかに温かなつながりが増せば増すほど、かけ算のように加速度的に人生が豊かになると実感したことが今、砂川市での仕事の励みになっています。このまちで、学校や地域を核として、たくさんの人と温かくつながってみませんか？

（「学習支援等ボランティア人材・団体バンク」登録募集中！ 社会教育主事 斎藤 佳太）